

## 要望演題4

### 高気圧酸素治療の国際比較2009

#### —適応疾患，治療法とその費用について—

合志清隆<sup>1)</sup> 溝口義人<sup>2)</sup> 高村政志<sup>3)</sup>

下河辺正行<sup>4)</sup> 岡元和文<sup>5)</sup>

- |   |
|---|
| 1) Clinical Research Team, The Baromedical Research Foundation, USA |
| 2) 健愛記念病院 外科  |
| 3) 熊本赤十字病院 国際医療救援部・救急部  |
| 4) 戸畑共立病院 内科  |
| 5) 信州大学医学部 救急集中治療医学   |

【はじめに】われわれは2004年に高気圧酸素治療(HBO)の適応や治療法，さらに費用に関して，主要諸国の代表的な施設から聞き取り調査を行った。その結果は学会誌(40:3-10, 2005)に掲載されているが，今回は新たな国を加えて同様の調査を行ったので報告する。

【対象と方法】対象とした国は，カナダ，アメリカ，マレーシア，インドネシア，オーストラリア，イタリア，フランス，イギリス，ポーランドとスウェーデンなどである。これらの国々において，代表的な専門医学会(UHMSやEUBS)で臨床報告を行っている施設の責任者に，以下の聞き取り調査を依頼した。採用しているHBOの適応基準，標準的な治療方法，救急的適応疾患の有無，さらに治療費である。

【結果】適応疾患では，一部の国を除いてUHMSやECHMをもとに各国が独自に適応疾患を決定していた。標準的な治療に多少の差はあるが，多くの施設で2.2～2.5ATAでの90分間の酸素吸入を取り入れていた。救急的適応疾患を設けているところが多いが，その費用と保険請求回数は国によって異なっていた。さらに，減圧障害の治療は米海軍治療表に準じ，治療費は他の救急的適応疾患とは別に設定されている国が多かった。

【結論】諸外国では科学的根拠と費用対効果からHBOが普及しているが，わが国の現状はHBO装置の閉鎖が目立っている。わが国の適応疾患とその費用は，30年以上にわたり基本的な改定がなされていないが，近年の医療崩壊の一端をHBOにみることができる。